

令和8年度 農林水産委員会 県内所管事務調査の概要

令和8年5月11日（月）

◆ 調査箇所：中部振興局、大分家畜保健衛生所

【概 要】

中部振興局（管轄：大分市、臼杵市、津久見市、由布市）及び大分家畜保健衛生所における組織の概要や主要農林水産物等の状況、園芸・畜産・水産業の振興、産地を牽引する担い手の確保・育成状況、鳥獣被害対策、農業農村整備事業、治山事業の状況、病性鑑定の実績、高病原性鳥インフルエンザ・豚熱の発生状況、重点取組事項等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・甘太くんの貯蔵問題について
- ・ベリーの栽培面積の減少理由、市場での評価について
- ・アカリンドニ症について

◆ 調査箇所：有限会社お花屋さんぶんご清川大分支店（大分市中尾）

【概 要】

有限会社お花屋さんぶんご清川は、20年以上にわたり豊後大野市で菊の栽培を行っていたが、経営の安定・多角化のために大分市中尾地区に栽培施設を整備し、令和7年10月から大分市内での菊の栽培を開始した。

今回は、会社の概要、菊の生産状況や取組等について説明を受けた後、質疑及び意見交換を行った。また、令和7年10月に完成した施設を視察した。



<主な質疑等>

- ・菊の苗の入手経路について
- ・菊の需要について
- ・外国人材の就業状況について

◆ 調査箇所：JAおおいたかんしょ広域選果場（臼杵市野津町）

【概 要】

JAおおいたでは、甘太くんの産地拡大に対応するため、現状の3倍以上となる1日当たり30トン进行处理することが可能となるかんしょの広域選果場を整備し、4月に竣工式が執り行われた。本施設においては、マイクロファインバブル洗浄、カメラ選別機も導入されており、秀品率の向上による甘太くんのさらなるブランド力向上にも寄与するものと期待されている。

今回は、施設の概要、甘太くんの生産状況、現状と課題等について説明を受けた後、質疑及び意見交換を行った。また、新設された施設を視察した。



<主な質疑等>

- ・甘太くんの品種であるべにはるかの種苗の盗難対策について
- ・閑散期の選果場の活用方法について
- ・甘太くんの中長期的な生産計画について

令和8年5月15日（金）

◆ 調査箇所：防災重点農業用ため池等整備事業 西下司溜池（杵築市南杵築）

【概要】

西下司溜池は、江戸時代以前に築造されたものである。150年以上にわたり、南杵築集落の農業用水源としての役割を担っているが、近年の集中豪雨等で堤体の弱体化が進行して漏水が増加しているため、改修工事を実施し、令和7年6月に工事が完了した。

今回は、事業の目的や工事内容等について説明を受けるとともに、現地を視察し質疑及び意見交換を行った。



＜主な質疑等＞

- ・事業費の地元負担について
- ・西下司溜池を利用している水田の工事期間中の水源について

◆ 調査箇所：東部振興局、農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループ、花きグループ

【概要】

東部振興局（管轄：別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町）、農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループ及び花きグループにおける組織の概要や基盤整備事業の推進、新たな担い手の確保・育成、集落営農組織の経営力強化、マーケットに対応した園芸産地づくり、水産業の振興、鳥獣被害の状況と対策の取組についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。



＜主な質疑等＞

- ・柑橘関係の圃場の状況について
- ・新規就農者の確保・育成状況について
- ・鳥獣被害において、捕獲頭数に大きな変化はないが被害額が減っている理由について

◆ 調査箇所：くにみ農産加工有限会社（国東市国見町）

【概要】

くにみ農産加工有限会社は、1981年に第3セクターとして設立され、近年ではバジルの生産拡大を進めており、中小企業庁が選定する2025年度はばたく中小企業・小規模事業者300社を受賞、また、自社製品であるバジル生産管理システムKUNIMIX CLOUDが農林水産省の知的財産の保護・活用に取り組む優良事例として取り上げられるなど注目を集めている。

今回は、事業概要やKUNIMIX CLOUDの機能等について説明を受け、意見交換を行った。また、バジル栽培の試験圃場を視察した。



＜主な質疑等＞

- ・農地、工場拡大の計画について
- ・バジル生産者と従業員の平均年齢について
- ・バジルの特性について

令和8年5月21日（木）

◆ 調査箇所：北部振興局、農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループ、水産研究部北部水産グループ、宇佐家畜保健衛生所

【概 要】

北部振興局（管轄：中津市、豊後高田市、宇佐市）、農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループ、水産研究部北部水産グループ及び宇佐家畜保健衛生所における組織の概要やマーケットに対応した産地づくりの例として、園芸基幹品目である白ねぎ・こねぎ、いちご、ぶどうの取組等について、集落営農の経営力強化、鳥獣被害対策、駅館川総合開発の推進について等、それぞれ説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・宇佐ジビエファクトリーへの管外からの獣肉の持ち込みについて
- ・猛暑化が進む中での、なつほのかの将来的な見通しについて
- ・アサリの減少に関する調査について

◆ 調査箇所：農事組合法人アグリストあじむMIRAI（宇佐市安心院町）

【概 要】

農事組合法人アグリストあじむMIRAIは、担い手やオペレーターの不足、組合員の高齢化等で組織の先行きに不安を感じていた3法人が、業務の効率化や担い手の育成等を目的として、令和7年4月に合併し設立した法人であり、農事組合法人の合併は九州初の事例となっている。

今回は、組織の概要、合併前の3法人の沿革、合併に至るまでの経緯、新法人の経営理念や今後の目標等について説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・法人としての採算性について
- ・安心院地域の他の集落営農法人とのつながりについて
- ・将来的な労働力確保に対する考え方について

◆ 調査箇所：株式会社碑成園（宇佐市安心院町）

【概 要】

株式会社碑成園は、担い手不足等により拡大する耕作放棄地を活用して大規模な茶園を展開している。「お〜いお茶」で有名な株式会社伊藤園の全量契約栽培となっており、栽培された茶葉は、自社加工場を経て伊藤園へ出荷されている。

今回は、組織の概要、茶業に参入した経緯、点在する茶畑の状況等について説明を受けるとともに、出荷直前の圃場を視察し、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・茶摘みの方法、タイミングについて
- ・契約先である伊藤園からのオーダーについて
- ・肥料・堆肥について

◆ 調査箇所：株式会社エフワイアグリ大分（中津市三光）

【概要】

株式会社エフワイアグリ大分は、令和6年より中津市下秣地区でベリーの生産を開始した。関東・関西の大手量販店と直接取引を行っているほか、シンガポール、香港、タイなどの海外にも輸出をしている。令和9年には中津市鍋島地区にもハウスを建設する予定であり、5年後に売上3億円、従業員50名を目指して取り組んでいる。

今回は、エフワイアグリ大分の設立経緯や自社の強み等について説明を受け、意見交換を行った。また、いちごを生産しているハウスを視察した。



<主な質疑等>

- ・外国人材の受入状況について
- ・イラン情勢が事業に及ぼす影響について
- ・いちごの生産を開始した理由について

令和8年5月22日（金）

◆ 調査箇所：JAおおいた西部事業部日田天領西瓜部会（日田市羽田）

【概要】

日田天領西瓜部会は、部会員数3名と小規模ながら、糖度・熟度を判別することができる光センサー選果機を導入しており、品質の証明・保証を全面に打ち出した販売をすることで、他産地との差別化を図っている。

今回は、部会の概要、光センサー選果機導入の経緯、近年の異常気象が西瓜の生産に及ぼす影響等について説明を受け、意見交換を行った。また、光センサーを使用した選果の様子等を視察した。



<主な質疑等>

- ・光センサー選果機導入における県・市の補助について
- ・光センサー選果機導入の効果、メリットについて
- ・西瓜の収穫のタイミングについて

◆ 調査箇所：西部振興局、農林水産研究指導センター林業研究部、玖珠家畜保健衛生所

【概要】

西部振興局（管轄：日田市、九重町、玖珠町）、農林水産研究指導センター林業研究部及び玖珠家畜保健衛生所における組織の概要や農業の成長産業化の推進、新規就農者の確保・育成、新たな園芸団地の確保、マーケットに対応した産地づくり、防災・減災対策、持続可能な林業経営を支える担い手の確保・育成、鳥獣被害防止対策の取組等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・大規模園芸団地の候補地選定方法について
- ・全国和牛能力共進会へ向けた見通しについて
- ・日田全体の西瓜の販売戦略について

◆ 調査箇所：ここのえ安達農園（九重町栗野）

【概 要】

ここのえ安達農園は、家族経営の農業を極める、規模拡大ではなく強い農業を目指すという思いで始めた農園で、商品の価値を消費者へ届けるため、また、商品に付加価値を与えるためにグローバルGAP認証、有機JAS認証を取得している。令和7年度には、ブルーベリーでは初となる全国果樹・技術経営コンクール農林水産省農産局長賞を受賞している。

今回は、取組の概要や今後の目標等について説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・栽培しているブルーベリーの種類について
- ・有機JAS取得のための取組について
- ・鳥獣被害について

◆ 調査箇所：アイ・エス・フーズ徳島株式会社九重支店（九重町町田）

【概 要】

アイ・エス・フーズ徳島株式会社は、自社生産拠点として、本社のある徳島県阿波市、兵庫県南あわじ市、丹波篠山市、大分県九重町の4拠点、連携産地として4府県の計8拠点で青ねぎを栽培しており、365日出荷をしている。近年の猛暑の影響で、夏に青ねぎを作ることが困難となってきた中、夏の生産拠点として令和5年に九重町へ拠点を構えることとなった。

今回は、会社及び事業の概要等について説明を受けた後、意見交換を行った。また、圃場の視察を行った。



<主な質疑等>

- ・青ねぎの特徴について
- ・九重町における従業員数、外国人材の活用状況について
- ・県への要望について

令和8年5月28日（木）

◆ 調査箇所：佐伯広域森林組合（佐伯市宇目）

【概 要】

佐伯広域森林組合では、50年のサイクルで伐って・使って・植えて育てる佐伯型循環林業を推進しており、再造林率はほぼ100%を達成している。その取組が注目され、現在では各方面から視察に訪れている。令和7年度には、大径材を活用した2×4住宅部材を生産する新工場を建設した。

今回は、事業の概要、管内の状況、これまでの取組等について説明を受けた後、施設を視察し質疑及び意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・苦労している点、工夫している点について
- ・他地域の森林組合からの相談等について
- ・将来的な展望について

◆ 調査箇所：南部振興局、農林水産研究指導センター水産研究部

【概要】

南部振興局(管轄：佐伯市)及び農林水産研究指導センター水産研究部における組織の概要や特定家畜伝染病対策、佐伯型循環林業の推進、うまみだけの生産量確保、養殖業の生産体制の強化と販売促進、参入企業に対するフォローアップや農業農村整備事業の推進状況及び養殖技術に関する研究等についてそれぞれ説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ 参入企業のフォローアップについて
- ・ 海洋フードテックに関する今後の取組の方向性について
- ・ 令和4年に佐伯市蒲江で発生した赤潮被害のその後について

◆ 調査箇所：浪井丸天水産（佐伯市蒲江）

【概要】

浪井丸天水産は、1978年の創業以来、一貫してブリの養殖を行っている。経営を安定させるためには価格決定権を持ち、商社に頼らない直売が必要と考え、自社ブランドである豊後ハマチ「若武者」を生み出した。令和6年度には、第30回全国青年・女性漁業者交流大会において農林水産大臣賞を受賞し、令和7年度第64回農林水産祭において、水産部門最高の栄誉である天皇杯を受賞している。

今回は、会社の概要やこれまでの取組、自社ブランド「若武者」の特徴等について説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ 次のステップアップのために挑戦したいことについて
- ・ 天皇杯を受賞することができた理由について
- ・ 餌にビール酵母を使用する理由について

◆ 調査箇所：農林水産研究指導センター水産研究部（佐伯市上浦）

【概要】

県内には水産研究機関が2機関あるが、佐伯市上浦の水産研究部においては、ブリ養殖の成長産業化に関する研究、資源評価・栽培漁業に関する試験研究、漁業調査船「豊洋」による海洋環境・水産資源に係る基礎調査、魚類防疫に関する指導・研究、養殖魚生産力強化に関する研究、漁場環境に関する研究等を行っている。

今回は、センター及び漁業調査船「豊洋」を視察し、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ 漁業調査船「豊洋」の性能等について
- ・ 疾病診断の対象となる魚がセンターへ持ち込まれる経緯について
- ・ 魚介類の疾病診断数の推移について

令和8年5月29日（金）

◆ 調査箇所：竹田市しいたけ原木供給会（竹田市久住町）

【概 要】

原木乾しいたけ生産者は高齢化が進み、年々減少している。また、竹田市では未整備クヌギ林が増加し、病害虫発生リスクが上昇している。これら二つの課題を一体的に解決するため、竹田市が実施する未整備クヌギ林整備事業によって生じるクヌギ材を使用して、しいたけの原木供給を行っているのが竹田市しいたけ原木供給会である。しいたけ生産者の供給原木に対する評価は高く、最近では供給が不足する状態となっている。

今回は取組概要、課題、今後の展開等について説明を受け、意見交換を行った。また、ほだ場を視察した。



<主な質疑等>

- ・人材確保状況、収支のバランスについて
- ・他の組合等との協力・連携について
- ・他業種からしいたけ栽培への参入について

◆ 調査箇所：豊肥振興局、農林水産研究指導センター農業研究部、畜産研究部、林業研究部きのこグループ、農業大学校、豊後大野家畜保健衛生所、県央飛行場管理事務所

【概 要】

豊肥振興局（管轄：竹田市、豊後大野市）、農林水産研究指導センター農業研究部、畜産研究部、林業研究部きのこグループ、農業大学校、豊後大野家畜保健衛生所及び県央飛行場管理事務所における組織の概要や担い手の確保・育成、林業・特用林産物の振興、鳥獣被害対策、開水路・管水路の整備、末端かんがい施設の整備、いちご育種技術の高度化、種雄牛造成・雌牛群整備、品種の改良・開発、農業大学校での教育・研修等について、それぞれ説明を受け、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・農業大学校農学部卒業生の就農率が下がっている理由について
- ・農業大学校に届く求人内容について

◆ 調査箇所：株式会社丸福（竹田市荻町）

【概 要】

株式会社丸福は、「地域で支え合い、皆で幸福になる」を経営理念に掲げ、地域密着型経営を展開しており、地域雇用の創出、農福連携など様々な取組を行っている。それらが評価され、令和6年度全国優良畜産経営管理技術発表会において農林水産大臣賞、第64回農林水産祭畜産部門において内閣総理大臣賞を受賞した。近年では、ドローンを使用した飼料米作成の省力化に向けた実証実験を行うなど新たな取組も行っている。

今回は、事業概要や取組等について説明を受け、ドローン播種による湛水直播を実験する圃場を視察した。



<主な質疑等>

- ・ドローンによる湛水直播実証試験の目的・目標について
- ・乾田直播ではなく湛水直播で実施する理由について
- ・田植えと直播の生育における違いについて

◆ 調査箇所：世界かんがい施設遺産認定「竹田のかんがい用水群」（竹田市荻町）

【概 要】

世界かんがい施設遺産認定は、かんがいの歴史・発展を明らかにして理解醸成を図ることで、かんがい施設の適切な保全につなげることを目的に創設された制度である。竹田市には、江戸時代に建設されたかんがい施設が現在でも営農に利用されていることなどから、三つの土地改良区の理事長を中心に認定に向けた気運が高まり、竹田市と連携して取組を進めた結果、令和7年9月に「竹田のかんがい用水群」として、日本では56番目となる世界かんがい施設遺産に認定された。

今回は、取組内容、今後の展望等について説明を受け、意見交換を行った。また、竹田のかんがい用水群の一つである白水ダムを視察した。



<主な質疑等>

- ・ 竹田市世界かんがい施設遺産推進協議会の事務局について
- ・ 荻地域の水田畑地化について
- ・ 富士緒井路小水力発電の維持管理費について